

矜 恃

佐 々 倉 航 三

矜恃(きんじ、正しくはきょうじ)などという詞は恐らく当用漢字にはないと思うが、かんたんには誇(ほこり)とでもいうより他に仕方あるまいと思う。英語のプライド(Pride)が最も近い詞であると考えるが、このプライドという詞の意味する内容は抽象的には一応理解できるが、これを具体的に言行ないしは心の中にどのように生かすかということになるとなかなかむずかしい。「誇」は自信、自尊などの概念にも通じるものであり、一步誤れば自慢ともなり他を軽侮することにもなりかねない。この辺のカネ合いが実際には我々凡夫にとってなかなかむずかしいところのように思う。私などもあるときは自尊心が強すぎるからとて人からはげまされるかと思えば、また一方ある場合は自尊心が強すぎて生意気だなどと非難を受けるのである。しかし、ともかくも自己を卑下するよりは多少自尊めいても仕方ないからその人なりのプライドはだれでも持っていて欲しいと思う。

いわゆる地方大学における少数の教官や学生の中には、この地方大学の呼び名の故にプライドを失いかけている人があるのではないかという気がしないでもない。プライドは自己の努力精進によって自分の心の中に培われるべきものである。他人が何といおうというまいと、各自個々の心の中に断乎として期するところがなければならぬ。

どうか学生諸君は人格についても学問についてもプライドを堅持するように、「日々是好日」の心境を以てご精進を願いたい。この意味で「しずはた」や先日誕生したばかりの「静岡地学」に学士院賞や文化勲章に値する立派な論文が発表される日がいつきても少しの不思議もなければ、またそれをあえて珍とするにも当らないのである。諸兄の奮斗を祈りたい。